

このコーナーでは安来市のDXの取り組みを紹介します。  
 DXとは、デジタルトランスフォーメーションの略で、デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革することです。

## 指定避難所などで どじょっこWi-Fiが利用できます

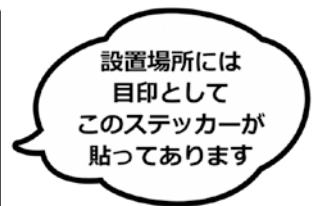
山陰ケーブルビジョン株式会社（やすぎどじょっこテレビ）は、無線でインターネットに接続できる公衆無線LAN「Wi-Fi」のアクセスポイントを市と共同で市内に整備し、「どじょっこWi-Fi」として運用しています。



これにより、災害時には避難所での通信手段を確保し、平常時は市民や観光客に快適な通信環境などを提供していますのでご利用ください。

## ●接続方法、接続制限、設置場所など

詳しくは、やすぎどじょっこテレビホームページ（右2次元コード）をご覧ください。



## 問い合わせ

自治体DX推進室 ☎23-3121  
 やすぎどじょっこテレビ ☎22-5050

加えて同年に松江藩松平家の支藩として広瀬藩が立藩し、広瀬の地に新たな城下町が整備されると、富田城下町は次第に忘れ去られていきました。  
 それから300年が過ぎた1966（昭和41）年頃、川の上流に堰堤やダムが建設されたことなどにより、河床に厚く堆積して

1600（慶長5）年に出雲・隠岐の国主として富田城に入城した堀尾氏は、1611（慶長16）年に松江に新たな城と城下町を築いて本拠地を移転しました。しばらくして富田城も廃城となりましたが、その後も富田城の城下町は存続していました。  
 しかし1666（寛文6）年秋の豪雨により塩谷川と富田川（飯梨川）の合流点付近にあった堤防が決壊し、町の大部分が濁流に飲まれて川底に沈んでしまいました。

安来市立歴史資料館の展示品を通して安来市の歴史を紹介する、このシリーズ。第9回は、江戸時代の初めまで存在した富田城の城下町についてのお話です。

歴史資料館資料  
 連載⑨知っておきたい  
**安来市の歴史**

その結果、戦国時代から江戸時代初めにかけての建物跡や石垣、井戸、墓地、道路など多くの遺構が発見され、陶磁器のほか、くしやげたなどの木製品や、包丁やキセルなどの金属製品など、富田城下町の人々の豊かな暮らしがうかがえる生活道具類が多数出土しています。

この遺跡は「富田川河床遺跡」と命名され、1974（昭和49）年に最初の発掘調査が行われたのを皮切りに、その後も河川改修工事に伴い、幾度も発掘調査が実施されました。



▲富田川河床遺跡から出土した生活道具。鉾やはさみ、碁石、羽子板なども発掘されました。

問い合わせ  
 歴史資料館 ☎32-2767

